

病害虫情報(第8号)11月予報

令和6年10月31日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333
ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 11月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、抑制トマト、促成トマト、抑制キュウリ、促成イチゴ、ネギ、キャベツ、ダイコン】
- II 11月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 9

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
- ※ 農薬に関する情報は、令和6年10月28日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 11月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

【水稲】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
縞葉枯病	—	—	❖ 媒介虫であるヒメビウンカの越冬場所を減らすため次の対策を実施する。 ①「ひこばえ」や水田内雑草をすき込む。 ②冬期～春期の畦畔や休耕田の除草を徹底する。
スクミリンゴガイ	—	△	❖ スクミリンゴガイの生存率を下げるため次の対策を実施する。 ①冬期に水田を複数回耕起すると殺菌効果が高い。耕うん深度は6cm程度の浅起こしで効果が高い。深く耕うんすると生貝を深く埋め込んでしまい、防除効果が低下する恐れがある。耕うんは走行速度を遅くし、ロータリーの回転を速くして浅く細かく耕す。 ②休耕田も発生源になるので、できるだけ①の対策を実施する。 ③未発生水田への貝の持ち込みを防止するため、トラクターなどに付着した泥は使用後に洗浄する。他水田でも使用する場合は、未発生水田の耕起を先に行うなど順番を考慮する。 ④用排水路で生存している貝の対策として泥上げを行う。地域全体で実施すると効果が高い。 ❖ 詳細は以下の防除対策資料を参照すること 神奈川県スクミリンゴガイ防除対策マニュアル https://www.pref.kanagawa.jp/documents/6967/sukumimanyuaru2022.pdf
ナガエツルノゲイトウ	—	△	【雑草茎葉散布】 ラウンドアップマックスロード 水田畦畔 [前日(雑草生育期),3回] 200～1,000mL/10a 水田刈跡 [雑草生育期,1回] 500～1,000mL/10a 等 ❖ 本田内で発生が確認された場合、降霜前までに除草剤で枯死させた後に耕うんする。使用した機械は、茎の断片が残らないように洗浄する。 ❖ 特定外来生物に指定されており、外来生物法により、栽培、保管、運搬、譲渡、放出、植栽等が禁止されている。疑わしい雑草はその場から動かさずに農業技術センターまたは最寄りの農協まで連絡する。 ❖ 詳細は以下の防除対策資料を参照すること 世界最悪の侵略的植物「ナガエツルノゲイトウ」に警戒を！ https://www.pref.kanagawa.jp/documents/88221/r6nagaebouiyvo.pdf

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和6年・第8号・11月) …………… 神奈川県農業技術センター

【カンキツ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
貯蔵病害 青かび病 緑かび病 軸腐病 炭疽病	並	○	(予・治) ベフトップジンフロアブル みかん:[7日,3回] 1,500倍 みかんを除くかんきつ:[前日,2回] 1,500倍 ☞ ベフトップジンは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) トップジンM水和剤[前日,5回] 青かび病、緑かび病、軸腐病: 2,000~3,000倍 等 ❖ 収穫時に傷を付けないようにし、傷果は貯蔵庫に持ち込まない。
ハダニ類 ミカンハダニ	やや多	○	オマイト水和剤 みかん:[7日,2回] 750倍 みかんを除くかんきつ:[14日,2回] 750倍 等 ❖ 収穫果を長期貯蔵する場合は防除する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和6年・第8号・11月) …………… 神奈川県農業技術センター

【抑制トマト】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント												
葉かび病	—	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, —] うどんこ病: 1,000～2,000倍 葉かび病: 1,000倍												
うどんこ病	—	○	(予・治) ベルクートフロアブル [前日, 3回] 2,000～4,000倍 (予・治) ポリオキシンAL水和剤 [前日, 3回] 葉かび病: 1,000倍 (治) エコピタ液剤 [前日, —] うどんこ病: 100～200倍 (治) ベミデタッチ [前日, —] うどんこ病: 500倍 等												
コナジラミ類 タバココナジラミ	多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日, 2回] コナジラミ類: 2,000～3,000倍												
アザミウマ類	—	○	アネキ乳剤 [前日, 3回] ミカンキイロアザミウマ, コナジラミ類: 1,000～2,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍 エコピタ液剤 [前日, —] コナジラミ類: 100～200倍 ベミデタッチ [前日, —] コナジラミ類: 500倍 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。 等												
			❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ❖ 施設開口部(出入口、天窗等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。 ❖ 本ぼでは、施設出入口に0.4mm目合い以下の防虫ネット等を2重被覆する。 ❖ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。 ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。 ❖ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 ❖ 栽培終了時は施設内に害虫を残さず、また施設外に出さない。 ❖ 残渣は適切に処分し、次作のために野良生えトマトを発生させないようにする。 	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和6年・第8号・11月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント												
コナジラミ類 タバココナジラミ	多	○	【育苗期:粒剤施用】 ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類:1~2g/株 ☞ 定植時までの処理は、1回以内とする。 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] コナジラミ類、ハモグリバエ類:1~2g/株 【育苗期:散布】 ベストガード水溶剤 [前日,3回] コナジラミ類、アブラムシ類、アザミウマ類:1,000~2,000倍 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] コナジラミ類:2,000~3,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] コナジラミ類、アブラムシ類、アザミウマ類:2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] コナジラミ類、アブラムシ類:4,000倍 ベミデタッチ [前日,-] コナジラミ類:500倍 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。 【育苗期後半~定植時:粒剤施用または灌注】 プリロツン粒剤オメガ [育苗期後半~定植時,1回:株元散布] 2g/株 又は、ベリマークSC [育苗期後半~定植当日,1回:灌注] 原液25mlを10~20Lに希釈/400株 【定植時:粒剤施用】 モスピラン粒剤 [定植時,1回:植穴土壌混和] コナジラミ類、アブラムシ類、トマトハモグリバエ:1g/株 ダントツ粒剤 [定植時,1回:植穴処理土壌混和] 1~2g/株 等												
アブラムシ類	—	○													
アザミウマ類	—	○													
ハモグリバエ類	—	△													
			❖ 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、害虫防除を徹底する。												
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															
			❖ 施設開口部(出入口、天窗等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。 ❖ 本ぼでは、施設出入口に0.4mm目合い以下の防虫ネット等を2重被覆する。 ❖ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 ❖ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。 ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。												

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和6年・第8号・11月) …………… 神奈川県農業技術センター

【抑制キュウリ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント										
べと病	並	○	(予・治) ホライズンドライフロアブル [前日,3回] 2,500倍 ☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) エトフィンフロアブル [前日,4回] 1,000倍 (予・治) リドミルゴールドMZ [前日,3回] 1,000倍 ☞ リドミルゴールドは混合剤。総使用回数に注意する。 等 ❖ 草勢低下と夜間の結露等による葉の濡れが発生を助長する。										
うどんこ病	やや少	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期,-] 1,000～2,000倍 (予・治) ポリベリン水和剤 [前日,2回] 1,000～2,000倍 ☞ ポリベリンは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] 2,000倍 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。 等										
褐斑病	並	○	(予・治) ゲッター水和剤 [前日,5回] 1,500倍 ☞ ゲッターは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ポリベリン水和剤 [前日,2回] 1,000倍 ☞ ポリベリンは混合剤。総使用回数に注意する。 等 ❖ 多湿状態で施設を密閉すると蔓延しやすく、夜間の結露等による葉の濡れが発生を助長する。										
コナジラミ類 タバココナジラミ	多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] コナジラミ類:2,000～3,000倍、アザミウマ類:2,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] コナジラミ類:2,000倍、アザミウマ類:2,000～4,000倍 ベネビアOD [前日,3回] 2,000倍 チェス顆粒水和剤 [前日,3回] コナジラミ類:5,000倍 等										
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	並	○	❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table> ❖ 施設開口部(出入口、天窗等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。 ❖ 本ぼでは、施設出入口に0.4mm目合い以下の防虫ネット等を2重被覆する。 ❖ 近年、抑制キュウリで黄化えそ病の発生が増加傾向にあるため、青色粘着板を設置し、アザミウマ類の発生消長を把握すると良い。 ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。 ❖ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)		MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPYV(キュウリ黄化病)													
MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和6年・第8号・11月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
うどんこ病	やや少	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予) フルピカフロアブル [前日, 3回] 2,000～3,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍 (治) エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 (予・治) パレード20フロアブル [前日, 3回] 2,000～4,000倍 等
アブラムシ類	並	○	ウララDF [前日, 2回] アブラムシ類:2,000～4,000倍 ファインセーブフロアブル [前日, 3回] アザミウマ類:1,000～2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] アブラムシ類:300倍 エコピタ液剤 [前日, -] アブラムシ類:100倍 マッチ乳剤 [前日, 4回] アザミウマ類:1,000～2,000倍 ハスモンヨトウ:3,000倍 フェニックス顆粒水和剤 [前日, 2回] ハスモンヨトウ:2,000～4,000倍 等
アザミウマ類	—	○	
ハスモンヨトウ	多	○	
ハダニ類	多	○	マイトコーネフロアブル [前日, 2回] 1,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍 エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

ミツバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤:エコピタ(1日)、ファインセーブ(1日)、フェニックス(1日)、マイトコーネ(翌日)

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ネギ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
さび病	並	○	(予・治) ストロビーフロアブル [7日, 3回] 2,000倍 (予・治) アフェットフロアブル [前日, 2回] 2,000倍
黒斑病	やや少	○	(予・治) サプロール乳剤 [前日, 5回] さび病:800～1,000倍 等 ❖ 薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。
ネギアザミウマ	やや多	○	アニキ乳剤 [3日, 3回] ネギアザミウマ:1,000倍、シロイチモジヨトウ:1,000～2,000倍
ヨトウムシ類			アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [3日, 2回] アザミウマ類:2,000倍
ハスモンヨトウ	多	○	ディアナSC [前日, 2回]
ヨトウムシ	やや多	○	アザミウマ類、シロイチモジヨトウ:2,500～5,000倍
(ヨトウガ)			ゼンターリ顆粒水和剤 [発生初期(但し、前日), -]
シロイチモジヨトウ	多	○	ヨトウムシ:1,000～2,000倍 ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ:1,000倍 等 ❖ 薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和6年・第8号・11月) …………… 神奈川県農業技術センター

【キャベツ:三浦半島地区以外】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
黒腐病	やや少	○	(予) Zボルドー [-,-] 500~1,000倍 (予) ヨネポン水和剤 [7日,5回] 500倍 (予・治) カセット水和剤 [7日,3回] 1,000倍 ☞ カセットは混合剤。総使用回数に注意する。 等 ❖ 強い降雨の後には、予防散布を行う。 ❖ Zボルドーで薬害が懸念される場合は、クレフノン(100~200倍)を加用する。但し、汚れが生じるため収穫間際の使用は控える。
菌核病	—	○	(予) セイビアーフロアブル20 [前日,3回] 1,000倍 (予・治) ファンタジスタ顆粒水和剤 [3日,3回] 2,000~3,000倍 (予・治) カンタスドライフロアブル [7日,2回] 1,500倍 等 ❖ 被害株は感染源になるため、速やかに除去する。
コナガ	やや少	○	アニキ乳剤 [3日,3回] コナガ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ:1,000~2,000倍
ヨトウムシ類 ハスモンヨトウ ヨトウムシ (ヨトウガ)	多 やや多	○ ○	アクセルフロアブル [前日,3回] コナガ:1,000倍 ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、オオタバコガ:1,000~2,000倍 ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 ゼンターリ顆粒水和剤 [発生初期(但し、前日),-]
オオタバコガ	やや多	○	コナガ、ヨトウムシ:1,000~2,000倍 ハスモンヨトウ、オオタバコガ:1,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和6年・第8号・11月) …… 神奈川県農業技術センター

▼ 三浦半島地区野菜 ▼

【キャベツ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
黒腐病	やや少	○	(予) Zボルドー [ー,ー] 500~1,000倍 (予) ヨネポン水和剤 [7日,5回] 500倍 (予・治) カセット水和剤 [7日,3回] 1,000倍 ☞ カセットは混合剤。総使用回数に注意する。 等 ❖ 強い降雨の後には、予防散布を実施する。 ❖ Zボルドーで薬害が懸念される場合は、クレフノン(100~200倍)を加用する。但し、汚れが生じるため収穫間際の使用は控える。
菌核病	—	○	(予) セイビアーフロアブル20 [前日,3回] 1,000倍 (予・治) トップジンM水和剤 [3日,2回] 1,000~1,500倍 等 ❖ 被害株は感染源になるため、速やかに除去する。
コナガ	やや少	○	アニキ乳剤 [3日,3回] コナガ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ:1,000~2,000倍
ヨトウムシ類 ハスモンヨトウ ヨトウムシ (ヨトウガ)	多 多	○ ○	アクセルフロアブル [前日,3回] コナガ:1,000倍 ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、オオタバコガ:1,000~2,000倍
オオタバコガ	やや多	○	ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 サブリーナフロアブル [発生初期(但し、前日),ー] コナガ:1,000~1,500倍、ハスモンヨトウ:500~750倍、 ヨトウムシ:1,000倍、オオタバコガ:500倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ダイコン】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
黒斑細菌病	並	○	(予) Zボルドー [ー,ー] 500倍 (予・治) カセット水和剤 [14日,3回] 1,000倍 ☞ カセットは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) カッパーシン水和剤又はカスミンボルドー [14日,3回] 1,000倍 ☞ カッパーシン、カスミンボルドーは混合剤。総使用回数に注意する。 等 ❖ 肥料切れしないよう適切な肥培管理をする。 ❖ Zボルドーで薬害が懸念される場合は、クレフノン(100~200倍)を加用する。
白さび病 (ワッカ症)	並	○	(予) ヨネポン水和剤 [7日,4回] 白さび病:500倍 (予・治) ランマンフロアブル [3日,3回] 2,000倍 等 ❖ ワッカ症の効果的な防除のために、白さび病を対象として11月上旬に薬剤散布を実施する。
アブラムシ類	やや多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [7日,2回]2,000~3,000倍 ウララDF [前日,2回]2,000倍 等
コナガ	やや少	○	ディアナSC [前日,2回]2,500~5,000倍 アニキ乳剤 [3日,3回]コナガ:1,000~2,000倍
ハモグリバエ類 ナモグリバエ	やや多	○	エスマルクDF [発生初期(但し、前日),ー] コナガ:1,000~2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和6年・第8号・11月) …… 神奈川県農業技術センター

II 11月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 11月の気象予報(気象庁 10月22日発表3か月予報)

〈天 気〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	10%	40%	50%
降 水 量	30%	30%	40%
日照時間*	50%	40%	10%

*10月24日発表1か月予報による。

(2) 11月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	貯蔵病害 青かび病 緑かび病 炭疽病 軸腐病	—	並	1) 県予察ほ(根府川)では、果実の青かび病、緑かび病等の樹上発病は平年並。(±) 2) 本年の着果量は平年並(±)、果皮の厚さはやや厚く(—)、減酸程度はやや早い(+) 3) 軸腐病と同じ病原菌で起こる黒点病の発生は、巡回調査、県予察ほ(根府川)ともに平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ミカンハダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(根府川)では、無防除区で発生が平年よりやや多く(+)、慣行防除区で発生が平年より少ない(—) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
抑制トマト 促成トマト	タバココナジラミ	少	多	1) 抑制トマトの巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 抑制キュウリの巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
抑制キュウリ	べと病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(—) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(—) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	褐斑病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	タバココナジラミ	中	多	1) 抑制キュウリの巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 抑制トマトの巡回調査では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 青色粘着板(平塚、大磯)への捕獲虫数は、平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (—): 少発要因

病害虫情報

(令和6年・第8号・11月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成イチゴ	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 育苗期(8月)の調査では、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は、平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハダニ類	少	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ネギ	さび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	黒斑病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ネギアザミウマ	中	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
キャベツ (三浦半島地区を除く)	黒腐病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	コナガ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、横浜では平年より少なく、県予察ほ(上吉沢)では平年よりやや少なく(－)、伊勢原では平年並(±)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
露地野菜全般 (三浦半島地区を除く)	ヨトウムシ類	－	多	1) キャベツの巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) ネギの巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 3) ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数は、横浜、伊勢原、県予察ほ(上吉沢)ともに平年よりやや多い。(＋) 4) ヨトウガのフェロモントラップへの誘殺数は県予察ほ(上吉沢)では平年よりやや少ない。(－) 5) シロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数は、横浜、伊勢原、県予察ほ(上吉沢)ともに平年より多い。(＋) 6) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハスモンヨトウ	－	やや多	
	ヨトウガ	－	多	
	シロイチモジヨトウ	－	多	
	オオタバコガ	－	やや多	1) キャベツの巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、横浜では平年より多く(＋)、伊勢原、県予察ほ(上吉沢)では平年並(±)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(令和6年・第8号・11月) …… 神奈川県農業技術センター

三浦半島地区野菜

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
キャベツ	黒腐病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	コナガ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦では平年よりやや少なく、県予察ほ(三浦)では平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ダイコン	黒斑細菌病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	白さび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ナモグリバエ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色粘着板への誘殺数は平年より多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来量は、平年より多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	コナガ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦では平年よりやや少なく、県予察ほ(三浦)では平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
露地野菜全般	ヨトウムシ類 ハスモンヨトウ ヨトウムシ(ヨトウガ) シロイチモジヨトウ	－ － －	多 多 多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数は、三浦と県予察ほ(三浦)ともに平年より多い。(＋) 3) ヨトウガのフェロモントラップへの誘殺数は、県予察ほ(三浦)では平年より多い。(＋) 4) シロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数は、三浦、県予察ほ(三浦)ともに平年より多い。(＋) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	オオタバコガ	－	やや多	1) キャベツの巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦では平年よりやや少なく(－)、県予察ほ(三浦)では平年より多い(＋)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回